

令和3年度 第2回 静岡市発達障害者支援地域協議会会議録

第1 日 時 令和3年12月16日(木) 午後6時30分～午後8時30分

第2 場 所 静岡庁舎 本館3階 第1委員会室

第3 出席者

(委員) 大塚玲委員(会長)、寺谷正博委員(副会長)、河原秀俊委員、  
佐藤博司委員、五條智久委員、早川恵子委員、内田雅子委員、  
前島恵美委員、松田剛委員、木林薫子委員、川口尚子委員

(事務局) 吉永保健福祉長寿局次長兼健康福祉部長、  
戸塚参与兼障害福祉企画課長、瀧障害福祉企画課長補佐、  
成岡障害福祉企画課主任主事、望月障害者支援推進課長、  
竹田地域リハビリテーション推進センター所長、  
荒田こころの健康センター事務長、松田参与兼精神保健福祉課長  
原田子ども未来課長、海野こども園課長、  
萩原子ども家庭課長、高山子ども若者相談センター所長、  
松下参与兼児童相談所長、大瀧特別支援教育センター所長、  
降矢商業労政課雇用労働政策担当課長兼係長  
静岡市発達障害者支援センター稲葉主任支援員、小杉副主任支援員  
杉本副主任支援員、福田支援員

第4 欠席者 柿畑新也委員、津田明雄委員、小川圭一委員、小田訓委員

第5 傍聴者 一般傍聴者 0名  
報道機関 0社

第6 次 第

- 1 開 会
- 2 挨 拶
- 3 協議事項

(1) 医療・教育・福祉の連携について

①大人の発達障がいについて

(大塚会長)

ただ今のご説明について、ご質問・ご意見・補足説明等がございましたらお願いいた

します。

(五條委員)

ご説明ありがとうございます。こころの医療センターと繋がった発達障がいの方は、確かに今稲葉さんがおっしゃっていたように主訴の具体化をととても喜んでおられます。ただ、見通しにかかるロードマップとかも視覚化に努めるとか、あとは発達障がいの当事者のみならず、親御さんにも同様の傾向が見られることも多いので、そういった意味でも具体化とか、進捗というのですかね、進行についての図式化等をしていただけると、それを持ってきた方もおられましたけど。とても喜んでおられました。そういった配慮を時間・人員等あれば是非お願いしたい。また、それをしていただけると関係機関として今の取り組みがより共有しやすいメリットがあります。以上です。

(大塚会長)

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。きらりと高校についての関わりについてのお話でしたが、発達障がいの方への支援について、高校教育課の委員本日ご出席ですが、事務局から事前に委員よりご意見を伺っているということで、報告をお願いします。

(成岡主任主事)

今回、きらりの新しい取り組みとしまして、来年度県立の中央高校ですとか、サポート校に関して支援を行っていきたいと考えている中で、高校教育課の小川委員が本日ご欠席なので、事前にお話を伺っております。今後学校に対してアプローチを行う際には、小川委員と協力をしながら話を進めていきたいということで、お願いをさせていただいております。また、サポート校につきましては、市内のサポート校それぞれに、今後アプローチが必要かと思っておりますので、今後についても協議会の委員の皆様からご助言とかがありましたら、是非よろしくをお願いします。以上でございます。

(大塚会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。では、私の方から。きらりの来年度の新たな取り組みですが、対象が高校やサポート校の生徒とその保護者や学校関係者ということで、高校の発達障がい支援という、非常に支援の意味が大きいので、是非よろしくをお願いしたいと思います。静岡県教育委員会の自立支援協議会の学齢部会にも参加させていただいていますが、そこで令和2年度末の中学校3年生の進路状況について、報告を受けました。文部科学省でも毎年特別支援学級の生徒の進路状況の報告をされていますが、それは障害種別ではなくて、支援学級全体でデータを出されているので、詳しい中身がわからないのですが、この静岡県の自立支援協議会では、知的特別支援学級

と自閉・情緒特別支援学級を分けて詳しい進路状況のデータを出していただいています。それによりますと、自閉・情緒特別支援学級の中学3年生の進路は、半数以上が高等学校に進学しています。知的障害の特別支援学級は、7割から8割が特別支援学校の高等部に進学しますが、自閉・情緒特別支援学級の半数以上が高等学校に進学しているということです。それから、専修学校は、静西管内では22%、静東管内では11%と、これもまた大きい割合ですね。このように、発達障がいの子供たちの進学先は、知的障がいの特別支援学級とかなり違って、高校がメインになっています。やはり高等学校で、こういったきらりの支援をしていただくということは、大変意味があると思っております。もう一つこのデータで気になったことは、在宅という生徒が10%くらいいることです。中学校卒業して在宅っていうのは、これはもしかするとそのまま引きこもってしまうという可能性もあって、非常に気になります。この静岡県のデータは、政令市は対象になっておりませんので、是非静岡市内の特別支援学級の知的障がいと自閉・情緒を分けて、詳しいデータを毎年ご報告いただければ、どれくらいの子供たちが高校に入学しているかわかります。また、高校でも全日制・定時制・通信制で違いますので、もちろん県のデータでは全日制が10%程度で、多いのは通信制です。通信制の高校に進学している子供たちが多いため、そういったデータを是非、報告していただければと思います。ご検討、よろしくお願いします。

他にご意見ございましたらよろしくお願いします。よろしいでしょうか。では、大人の発達障がいの支援に関しましては、申しましたようにやはり学校ではそれなりにサポートがありますけども、その後、特に義務教育が終わった後の支援、医療と福祉が繋がっていくような支援をお願いしたいと思います。また、きらりは引き続き関係機関との連携強化を進め、地域の取り組み等について協議会で進捗状況をご報告いただければというふうに思います。

## ②市立小中学校と放課後等デイサービスについて

(大塚会長)

ただ今のご説明に対しまして、ご質問・ご意見・補足説明等がございましたらお願いいたします。

(寺谷委員)

私ども教育の方も、関係機関の連携が重要であることの認識はできております。この状況をご理解いただければありがたいと思うのですが、新しい時代の教育ということで、ご存知の通りギガスクール構想で端末が全児童に購入される、令和になってからの小中一貫教育のスタート、5教科担任制が始まると。また、ご存知の通りのコロナ対策を継続している、さらに不登校児童については静岡市・静岡県は近々の課題になっている中、教員もメンタルの不調や傷病休暇が急増しております。その中で、放課後支援だけでも、こういった放デイの他に児童クラブ、あるいは放課後子ども教室といった事業がござい

ます。児童クラブ・放課後子ども教室の利用生徒 100 名以上がこういった情報の共有で連携するのは、非常に大ごとになる部分があります。実際にそういった声も多く伺っております。それらを全て学校が受けていくということになると、学校の負担感というのが非常に大きなものになってしまわないか。また、放課後デイということであると、保育所等訪問支援事業といったものも始まっています。正直な話、この事業により学校等と軋轢が生じてしまっているといった事例もあります。学校の負担感を軽減していくためには、この補足資料にあるような電話連絡といった手段が利便性としては非常にいいものかなと思うのですが、事例の 2 にありますような、進路に関わるのが担任の私見なのか、それとも学校としての見解なのかといったところが、しっかりととらえられないといった問題もあるのかなと考えます。大変重要性がある事業であることは、理解しているつもりであります。なるべくスムーズに運用を図って、双方にとって意義のあるものにできたらいいなと。そのためには、まず学校へ連絡すべき事項の精査というのをしっかりつくっていかねばならないと。もし、家庭の問題、学校では解決しない問題を連絡していただいても、学校の負担感が高まってしまうと思っておりますので、まず連絡すべき事項の精査を高めていただくこと、実施するにあたって丁寧で慎重なご説明をいただけることをお願いします。そうしたところが、双方の成果に繋がっていくのではないかと思っております。要望になります。よろしくお願いいたします。

(大塚会長)

ありがとうございます。他にご意見ある方お願いします。

(前島委員)

静岡市静岡手をつなぐ育成会の前島です。親の立場から意見を言わせていただくと、本当にこういう資料ができるのは、とても幸せなことだな、ありがたいことだなと思えます。それぞれ別なところで別な支援や教育を受けていたりして、その人たちが繋がって子どものことを考えてくださるっていう、本当にこの仕組みはありがたいと思いました。以上です。

(大塚会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

(木林委員)

静岡市聖母幼稚園の木林と申します。教育と行政の連携というのは、本当に理想的だなと思っております。療育機関の先生方はとてもお忙しくて、なかなか訪問ができない中、こういう電話やふくろう便のような文書のやり取りが幼稚園・保育園等でも考えていただくとさらに嬉しいと思えます。理由としましては、年長になったときに教育相談は保護者の希望でないと相談が受けられないという教育委員会の規定がありまして、

そういう中で療育の先生がそこに入ってくださいると、また専門的な立場からも話に入っ  
ていただけることもできますので、是非幼稚園・保育園もそのような理想的なモデル事  
業に乗っていただけたら嬉しいと思います。

(河原委員)

私もこの事業は本当に素晴らしいことだというふうに考えています。やはりその療育  
と学校が情報共有をすることによって、その子供たちにとってより有効な方向性が出て  
くると思いますので、是非やっていただきたいと思いますが、ただやはり学校の先生方  
のご苦労も非常に大変かなと思いますので、もし大変なようでしたら、今やっている事  
業として今6校ですかね、来年から一斉に実施だそうですけど、それを徐々に増やして  
問題点を洗い出していくという方向性もありだと思います。その辺は学校の先生にも配  
慮したかたちで事業をやっていただければよろしいのではと思いました。以上です。

(大塚会長)

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。よろしいでしょうか。委員の皆様  
のご意見にありましたように、教育と福祉の連携については非常に重要なことでして、  
ここでは特に学校と放課後デイサービスの連携をどうするかということですが、今本当  
に放課後等デイサービスは子供たちにとって、放課後の生活の大きな部分を占めていて、  
学校と放課後等デイサービスの情報共有がすごく重要なことだと思います。ですので、  
是非進めていただきたいのですが、一方で寺谷委員のご指摘のとおり、学校も非常に多  
忙化している現実もありますので、双方に負担のないかたちで連携が進むように考えて  
いただければと思います。最初から完璧なシステムはなかなかないものですから、やり  
ながら改善していくことと思っております。ですので、河原委員からご提案がありまし  
たように、来年度全部スタートするのか、もう少し余裕をもって徐々にスタートするの  
か、事務局でご検討いただいて、システムがスムーズに進むようにご検討いただければ  
と思います。

### ③かかりつけ医と発達早期支援体制について

(大塚会長)

ただ今の説明に関しまして、ご質問・ご意見・補足説明等がございましたらお願いい  
たします。

(木林委員)

先ほどのご意見と被ってしまうかもしれませんが、幼稚園・保育園・こども園の方にも、  
こちらのあそびのひろばの個別記録表を情報共有させていただくことは、とても大  
切になると思います。事前に親御さんの許可が下りて、あそびのひろばの様子を共有さ  
せていただいて入園に繋がると、とてもお子さんへの対応がスムーズにできます。です

ので、是非それを希望いたします。

(大塚会長)

あそびのひろばの個別記録表を幼稚園とかにもということですが、これは大丈夫でしょうか。

(成岡主任主事)

ありがとうございます。そういった声を様々な園から頂戴している中で、以前にこども園から情報提供の依頼をいただいて保護者の同意をとって、実際にこども園に情報提供したことはございます。なので、今回かかりつけ医につきましては、申し込みのときに書面に希望するかしないか確認しますが、こども園につきましては、受託者が保護者に対して情報提供のメリットを十分に説明して、入園の際に勧めたいと思っております。ありがとうございます。

(大塚会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。この議題はかかりつけ医との連携の話でございますので、静岡医師会の河原委員から、このことについてご意見がありましたらお願いします。

(河原委員)

特に追加の意見はございません。是非進めていただきたいと思います。始めるにあたりましては、市内の小児科医の医院と医師にこの事業を説明して開始していただければ、徐々に浸透していくと思いますので是非お願いします。

(大塚会長)

ありがとうございます。清水医師会の佐藤委員はいかがでしょう。

(佐藤委員)

細かいところではございますが、個別記録表にことばの発達とか主に自閉傾向の項目でよろしいかと思いますが、運動系のチェック項目が全然ないので、例えば積み木が積めるだとか、階段の上り下りができるかとか、そういう項目は確認の中に入れるっていうことはないのでしょうか。こういう言葉とかじゃなくて、運動発達って僕ら見ているものですから、こういう項目なくしちゃってこの記録表いいのかな、とちょっと見ているんですけど。

(成岡主任主事)

ありがとうございます。あそびのひろばは子ども家庭課が主管しております、ぱす

てるひろばは障害福祉企画課が主管しております。個別記録票は、先ほど増山から説明させていただいたとおり、両方とも共通しておりますので、こちらの方は持ち帰りさせていただきまして、両課で検討し、ご報告させていただきます。ありがとうございます。

(大塚会長)

では、記録表の内容の検討についてよろしくお願いたします。他にご意見ある方はいらっしゃいますか。それではこのかかりつけ医との連携につきまして、河原委員、それから佐藤委員には静岡医師会、清水医師会の先生方への周知について、是非ご協力をお願いいたします。

(2) サポートファイル(案)について

(大塚会長)

ありがとうございました。ただいまのご説明につきまして、何かご質問・ご意見等ございましたらよろしくお願いたします。

(五條委員)

サポートファイルを拝見するととてもいいと思いますけど、周知の面でポスターとか、私の方で病院とかにも貼らせていただければ、やっぱり関係機関が繋がっていくことが大切、我々が支援したいを思うので、ご検討をよろしくお願いたします。

(成岡主任主事)

ありがとうございます。

(大塚会長)

ありがとうございます。今、周知についてのご意見ございましたが他にいかがでしょうか。

(寺谷委員)

小中学校では 21 ページの様式資料で、個別の療育支援計画の様式として活用している学校が非常に多いという状況になります。ご覧いただいてわかるように、発達障がいに関する項目が非常に厚いわけです。その他の項目については、非常に少ない。で障がい種別にサポートファイルを新たに作るということは、非常に大変な労力・また費用もかかると思うので、このサポートファイルが本市の唯一のサポートファイルということで、もう少し他障がいについても、表というか項目を差し込んでいただけるとありがたいなと。そうすることによって、普及の推進が図られるのではないかなと思っております。特別教育支援セミナーで就学支援に活用している各障がい種別のアセス表があるので、新たな労力と考えればそれを差し込んでいただけだけでもいいのではないかと思

います。ご検討いただければと思います。よろしくお願いいたします。

(大塚会長)

よろしいでしょうか。確かに色々な障がい種別がありますので、なかなかそれを全部網羅するのは難しい点もあろうかとは思いますが、どういうふうな形で差し込んでいくか、ご検討いただければと思います。よろしいでしょうか。他にご意見ございますか。

(前島委員)

育成会では機関紙を出しているのですが、それで会員には周知をしていきたいと思っています。

(大塚会長)

ありがとうございます。よろしくお願いいたします。では保護者の方、何かありましたらよろしくお願いいたします。

(川口委員)

私も、今同じことを考えてはいたのですが、うちの世代に子どもはほとんどいませんので、大人がどの程度使えるか一度お試しでやってみたいと思っているので、会でちょっとやってみてと思っています。サポートファイルを子どもさんじゃなくて大人の発達障がいの方が手にする場所はどこかなと思っていたのですが、福祉事務所だったりきりだったり、入口としてはやっぱりきりりかなって思うのですが、割と発達障がいという言葉は知られてきていまして、色々な方がご存知なので、もう少し公共の場にポスターを、という話もあったので、一般的に目に触れるところでも大丈夫なのかなとは思いますが、ちょっと危険性もあって、何か独り歩きしちやっているかなってところはあるので、難しいところだと思うのですが、あまりそういう機関に関わっていなかった方たちの目にも触れるところに置いていただけるといいかなと思います。区の図書館とか、そういう誰でもが行くような場所にもお願いしたいと思っています。

(大塚会長)

ありがとうございます。木林委員はいかがでしょうか。周知あるいは配布について、ご意見がありましたらお願いします。

(木林委員)

すくすくファイルは意外とハードルが高かったりすると思いますので、本当にお母様方が子育て支援センターとかに見やすい形で何か提示できるといいかなと、手に取りやすいようにしたらいいんじゃないかなと思います。

(大塚会長)



ありがとうございます。松田委員、何かご意見がございましたらお願いします。

(松田委員)

このサポートファイルですけど、以前これが出生時には全部配ったっていうお話は聞いたんですけど、各園にこれ、今1枚ずつ配布されるっていうことであれば、もう少し部数を増やしていただければ、それなりにいいのかなというのと、大人までのことが載っていて積み重なっているんですけど、保育園のところについては、保育園のところでも一旦途切れてしまうんですけど、どういうふうにして使ったらいいのか難しいことと、うちの保育園では、特に職員がこういう表れがあるということで記録はするのですが、それを渡すことは特にはしていないものですから、そういったものが親と共同してできていくっていうことであれば、その辺の周知ができればいいのかなというふうに思いました。

(大塚会長)

ありがとうございます。早川委員いかがでしょうか。

(早川委員)

先ほどのあそびのひろばとか、ぱすてるひろばであったり関わったようなお子さんがこの時点からこういうのをつけていけると、ずっと繋がるのだろうなとは思っただけけれど、そういうお子さんにどういうふうこれを紹介していくとか、その辺を保護者が母子手帳は全員つけるけど、サポートファイルに切り替えていくっていうところの親御さんの葛藤みたいなのか、お子さんの様子とかをどこらへんで上手く進められるかと思うと、ちょっと難しいなっていうところはあります。例えばいこいの家にも通ってくるようなお子さんであれば、ある程度保護者の方も困っていることがあるので、後々こういうのをつけておけば、将来的に役に立つっていうことは理解できて、職員も一緒に考えてつけることはできると思うんですけど、そこら辺のグレーの部分は、こういう方にこそつけてもらえるといいじゃないかなと思うんですけど、ここはどういうふうにするかがちょっと難しいなっていうのが、ちょっと今の感想です。

(大塚会長)

ありがとうございます。清水うみのこセンターの内田委員お願いします。

(内田委員)

うみのこセンターでは、うみのこセンターを利用される方に、初回面接をさせていただいているのですが、そのときにすすくファイルと一緒に渡して使っていただくようにしています。お母さん方には、母子手帳の大きくなったものと考えていただければというように説明させていただいていたのですが、母子手帳は一定期間だけの記録に

なると思うのですが、すくすくファイルを使うことでこの先お子さんが成長して、つぎの段階にいくときに、その都度お母さん方がお子さんの全てを先生方や新しい関わりの方たちに説明しなくてもこのすくすくファイルを1冊手元に持っていて、それを示していただけるだけで、お子さんのことを理解していただけるということで、使っています。様式が新しくなるということで、また新しいサポートファイルの色々な活用を検討させていただきたいと思っています。

(大塚会長)

ありがとうございます。このサポートファイルにつきましては、内田委員がお話しされたように乳幼児期から成人期まで、効果的な支援のための情報の引き継ぎのツールですので、是非活用していただいて、そしてまた色々ご意見いただきまして改善をしていただければと思います。また、この活用につきましては、ご協力をお願いいたします。

#### 4 報告事項

(大塚会長)

ありがとうございます。

#### 5 今後の協議会の検討事項等、感想

(五條委員)

発達障がい、自閉症と最重度の知的障がいを特性として持つ言葉で、強度行動障がいという方について、先日九州の肥前で病院の方が中心になって調査があったのですが、やはりそういった方を受けられる場所がなく、また行政の方が少し横糸になって、少しそういった連携について少し検討する時間を設けていただければと考えています。

(大塚会長)

ありがとうございます。強度行動障がいについては、静岡市ではどのような取り組みをしているか何かありましたらお願いします。

(成岡主任主事)

強度行動障がいを受け入れるために、専門家を通所施設、入所施設に派遣して、支援者の支援力を上げるサポート事業行っています。ただ、そういった事業を受けてくださる施設の手挙げがないという課題がありまして、サポート事業の受け入れの施設、入所施設・通所施設を増やしていくことが、今行政の方では積極的に働きかけを行っているところです。今後、強度行動障がいの方を静岡市で受け入れることができるような、そ

ういった施設を増やしていくというところが目指すところだと思っています。ありがとうございます。

(大塚会長)

確か、前回のこの会議のときに、強度行動障がいに関するパンフレットを配っていただいたように記憶しています。

(成岡主任主事)

はい。報告書をお配りさせていただきました。

(大塚会長)

ありがとうございます。強度行動障がいの方の受け入れについても事務局の方でご検討いただければと思います。他に何かご意見ありましたらお願いします。ないようでしたら、本日の議事は終了といたします。委員に皆様におかれましては、円滑な進行にご協力いただきありがとうございました。